

「投資家への期待・要望」等に関する 企業アンケート

2026年6月12日

株式会社東京証券取引所

上場部



「投資家への期待・要望」等に関する企業アンケートの実施について

- ◆ 昨今、投資家との対話に積極的に取り組む企業が増加するなかで、企業の皆様からは、投資家との対話で得た気づきが、取組み・開示のブラッシュアップに繋がったという声があると同時に、投資家の対話姿勢や対話内容の質向上を求める声も寄せられています。
- ◆ そこで今般、より実効的な対話の促進に向けた検討材料を提供していくため、プライム・スタンダード・グロース市場の上場会社の皆様を対象として、「投資家への期待・要望」等に関するアンケートを実施します。
- ◆ 本アンケートでご回答いただいた企業の皆様の声は、より実効的な対話の推進の観点から、投資家向けに参考情報として広く周知していくほか、今後の企業の皆様に向けた情報発信・サポートの検討材料としても活用してまいります。
- ◆ 企業と投資家の実効的な対話の促進に向けて、ぜひ忌憚のないご意見をお寄せください。
- ※ 本アンケートは、回答者の所属部署・役職に指定はなく、実際に対話を行っているCEO・CFO・IR部門などの皆様からの実際の声を把握することを目的としております。ぜひ社内でご連携のうえご回答ください。
- ※ 回答内容について、当取引所の公表資料に掲載する場合がございますが、回答者の個社名が特定できる形で公表することはありません。
- ※ いただいたご意見を踏まえ、個別にヒアリング等をお願いさせていただく場合もございますので、ぜひご協力いただけますと幸いです。

「投資家への期待・要望」等に関する企業アンケート（概要）

対象

◆ プライム・スタンダード・グロースの全上場会社

回答方法

◆ アンケートについては、提出フォームからご回答ください。

※ 提出フォームのURL等については、上場会社通知資料（2026年6月12日付）に掲載しておりますので、Targetからご確認ください。

回答期限

◆ **2026年7月17日（金）まで**にご回答ください。

※ 期限までのご回答が難しい場合は、当取引所のメールアドレス（jojo-kikaku@jpx.co.jp）までご相談ください。

アンケート質問項目の概要

Q1. 自社の取組みに関する機関投資家の関心事項（選択式）

Q2. 対話で得られた意見を踏まえて実施した取組み（選択式）

Q3. 「有意義な対話ができている」と感じているか（選択式）

「有意義である」と感じる対話について：

Q4. その理由（選択式）

Q5. 具体的なエピソード、心がけ・工夫（自由記述）

Q6. 機関投資家の属性（選択式）

Q7. 機関投資家の名称（自由記述）

Q12. 機関投資家に対する要望や期待（自由記述）

Q13. 取引所に期待する取組み（自由記述）

「有意義でない」と感じる対話について：

Q8. その理由（選択式）

Q9. 具体的なエピソード、自社の課題（自由記述）

Q10. 機関投資家の属性（選択式）

Q11. 機関投資家の名称（自由記述）※ Q11の結果は非公表

アンケートの質問項目（詳細）①

Q1. 直近1年間の対話で感じる、自社の取組みに関する機関投資家の関心事項（複数選択可）

【事業戦略・成長戦略】

- ・ 事業戦略・成長戦略の方針・目標設定
- ・ 成長分野への投資（M&A含む）
- ・ 研究開発・知的財産への投資
- ・ 人的資本戦略・人的資本投資
- ・ 既存事業の収益性向上
- ・ 不採算事業の縮小・撤退

【資本政策・バランスシート】

- ・ 株主還元（配当・自社株買い）
- ・ 現預金や不動産など資産の最適化・効率化
- ・ 資本と負債のバランス（財務レバレッジ）
- ・ 政策保有株

【その他】

- ・ 短期の業績見直し
- ・ 情報開示の充実
- ・ 株主・投資家との対話の充実
- ・ その他

【ガバナンス・サステナビリティ】

- ・ 取締役会の機能強化（構成・実効性等）
- ・ サステナビリティに関する取組み

Q2. 直近1年間の対話で得られた意見を踏まえて実施した取組み（複数選択可）

【事業戦略・成長戦略】

- ・ 事業戦略・成長戦略の方針・目標見直し
- ・ 成長分野への投資（M&A含む）の推進
- ・ 研究開発・知的財産への投資の推進
- ・ 人的資本の戦略見直し/投資推進
- ・ 既存事業の収益性向上に向けた対応
- ・ 不採算事業の縮小・撤退の推進

【資本政策・バランスシート】

- ・ 株主還元（配当・自社株買い）の充実
- ・ 現預金や不動産など資産の最適化・効率化
- ・ 資本と負債のバランス（財務レバレッジ）
- ・ 政策保有株の見直し

【その他】

- ・ 情報開示の充実
- ・ 株主・投資家との対話の充実
- ・ その他

【ガバナンス・サステナビリティ】

- ・ 取締役会の機能強化（構成・実効性等）
- ・ サステナビリティに関する取組みの推進

Q3. 直近1年間の機関投資家とのIR面談等について、「有意義な対話ができている」と感じているか（5段階の選択肢）

5. 非常に感じている（有意義な対話を多くできている）
4. どちらかといえば感じている（有意義な対話のある程度はできている）
3. どちらともいえない
2. どちらかといえばそう感じない（有意義な対話をあまりできていない）
1. そう感じない（有意義な対話をほとんどできていない）

Q4. 機関投資家との対話が「有意義である」と感じたケースについて、そのように感じた理由（複数選択可）

【得られた示唆・理解（インプット）】

- ・ 事業戦略・資本政策などの経営方針に関して、有益な示唆・助言を得ることができた
- ・ 業界動向や競合比較など、投資家ならではの客観的な視点を得られた
- ・ 自社の課題や認識のギャップ、投資家の評価軸を具体的に把握できた

【対話の質・プロセス】

- ・ 自社や業界に関する十分な分析・理解を前提とした議論が行われた
- ・ 双方向で建設的な議論ができた（相互に意見交換が行われた）
- ・ 中長期的な視点に立った議論や、本質的なテーマについて議論できた

【対話の成果（アウトカム）】

- ・ 対話を通じて、経営の取組み（戦略・資本配分等）の見直し・改善に繋がった
- ・ 情報開示や投資家向け説明の内容を改善することができた
- ・ 投資家からの理解・評価の向上や、継続的な対話関係の構築につながった

- ・ その他

Q5. 機関投資家との対話が「有意義である」と感じた具体的なエピソードや、有意義な対話を行ううえで心がけていることや工夫していること

（自由記述）

Q6. 「有意義な対話である」と感じたことが多い機関投資家の属性（複数選択可）

- ・ 国内ロング機関投資家（アクティブ運用）
- ・ 海外ロング機関投資家（アクティブ運用）
- ・ 国内パッシブ運用機関投資家（インデックス運用等）
- ・ 海外パッシブ運用機関投資家（インデックス運用等）
- ・ 国内ヘッジファンド
- ・ 海外ヘッジファンド
- ・ 国内アクティビスト
- ・ 海外アクティビスト

Q7. 「有意義な対話である」と感じた機関投資家の具体的な名称

（自由記述）

アンケートの質問項目（詳細）②

Q8. 機関投資家との対話が「有意義でない」と感じたケースについて、そのように感じた理由（複数選択可）

【得られる示唆・気づきの不足】

- ・ 事業戦略・資本政策などの経営方針に関して、有益な示唆・助言を得られなかった
- ・ 業界動向や競合比較など、投資家ならではの客観的な視点・情報が得られなかった
- ・ 投資家が重視する評価軸や関心事項についての理解促進に繋がらなかった

【対話の質・プロセスの課題】

- ・ 自社や業界に関する分析・理解が不十分なまま対話が行われていた
- ・ 一方的な意見表明や形式的な質問にとどまり、建設的な議論にならなかった
- ・ 短期的な業績や株主還元などに議論が偏っていた

【対話の成果の不足】

- ・ 対話を通じて、自社の経営や開示の改善に繋がらなかった
- ・ 投資家における自社への理解や評価の向上に繋がらなかった
- ・ 継続的な対話関係の構築に繋がらなかった
- ・ 議決権行使が一律の基準で硬直的に判断されており、対話の意義を感じにくい
- ・ その他

Q9. 機関投資家との対話が「有意義でない」と感じた具体的なエピソードや、有意義な対話の実現に向けた自社の課題

(自由記述)

Q10. 「有意義な対話でない」と感じたことが多い機関投資家の属性（複数選択可）

- ・ 国内ロング機関投資家（アクティブ運用）
- ・ 海外ロング機関投資家（アクティブ運用）
- ・ 国内パッシブ運用機関投資家（インデックス運用等）
- ・ 海外パッシブ運用機関投資家（インデックス運用等）
- ・ 国内ヘッジファンド
- ・ 海外ヘッジファンド
- ・ 国内アクティビスト
- ・ 海外アクティビスト

Q11. 「有意義な対話でない」と感じた機関投資家の具体的な名称

(※) アンケート結果は非公表

(自由記述)

Q12. 機関投資家との対話をより有意義なものとしていく観点から、機関投資家に対する要望や期待

(自由記述)

Q13. より有意義な対話の推進に向けて、取引所に期待する取組み

(自由記述)